

# 「命をつなぐ人々」救急隊員との 忘れられないエピソード

2024 救急の日特別企画

Vol.16

投稿者：GRAM陽子 さん

本当に感謝して、一生忘れません。

今は亡き私の祖父は消防で働いていました。

その頃に新入職員として就職した男性の方が、今でも長年消防で勤務しています。

去年、過呼吸発作を起こしてしまったわたしは救急車を呼びました。

とても呼吸が苦しくて、足にも力が入らず立つことも不可能で不安になっていました。

そんな私に、祖父と働いていた方が私に

『陽子ちゃんのじいちゃん沢山世話になったから助けてあげなきゃな😊』

と言ってくれて、他にも不安が和らぐよう沢山声を掛けてくれました。

あの時助けられた私は今でもすごく感謝しています。



写真：陽子さんと娘さん

もう一つエピソードがあります。

私には今、小6の娘がいます。

娘が4歳の頃、いきなり呼吸を苦しそうにしていてお腹のみぞおち辺りがベコベコと凹んでいました。

どうしようとパニックになったわたしはとりあえず119番に電話。

その時に電話対応してくれた男性の方に相談すると、僕だったらすぐ病院に連れて行きますと教えてくれたのでそのまま救急車に来てもらいました。

病院に着いた頃には酸素の数値がとても悪く、検査の結果喘息だとわかりました。

よっぽど状態が悪かったのか、その日からナースステーションの前で入院。

酸素の数値も悪いため、酸素のカバー？みたいなのをベッドの周りにつけられてそこで過ごしていました。

しばらく入院し、状態も安定してきた為退院。

今でも喘息の薬は毎日飲んでますが、あの時冷静に対応してくれた救急隊員の方には本当に感謝しています。

一生忘れません。